



みずみどり

2024年10月1日 第164号

発行：いたばし水と緑の会

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

連絡先 坂本 郁子 桐蔭区中台2-27-E505

# トンボ池の水草



以前トンボ池で作業していると初めて来たであろう観光客？の人から、ここがトンボ池ですか？と聞かれ「水は綺麗じゃないんですね」と言われました。

湧水を引いて来ているので水自体は綺麗なんですよ、と答えました。

言われてみると水底には泥が堆積していて見た目、綺麗とは言えません。

何か殺風景。そういえば水面(水中にも)水草が生えていない。

現在トンボ池にある水草は水辺の淵に生える種類でウキヤガラ、ショウブ、ヨシ、イグサ、

タコノアシ（写真右）といったものです。

水中に生える水草があれば水生昆虫の隠れ場所、産卵場所が増えてヤゴも孵るのではないのでしょうか。

会ではトンボ池をビオトープと考えています。ビオトープとは、そこにもともと暮らしていた動植物がくらす場所です。動物は自分でやって来て、食べたり、繁殖して子どもが育っていくことが前提です。植物は種がきて住みつけますが、水草のように自生していない植物は、出来るだけ近くから調達します。

水と緑の会では、荒川流域で秋ヶ瀬までの水草ならいいだろうという考えです。

以前、戸田市彩湖自然学習センターから水草を貰って植えたこともあったそうです。

### トンボ池の近くにある水草



エコポリスセンターのビオトープ（写真上）ではガマやオオカナダモがあり、水草を分けてもらえそうです。

沖山地区の湿地では水草のオモダカが繁っていましたが最近見るとスカスカになっており、水辺には大きなザリガニがたくさんいました。少なからず影響しているものと思われます（写真右）。



準備として特定外来種のアメリカザリガニの駆除が必須です（せっかく植えてもハサミで切られてしまう）。

今年ザリガニ駆除を積極的におこない来年以降、水草が増えてヤゴがトンボに羽化する池になるといいですね（布施 今朝一）。

令和6年度「自然観察・保護活動ボランティアスキルアップ講習

## 「花だけじゃない！ 雑木林の隠れた魅力を伝えよう！」に参加して

2024年 8月10日（日）於 神大植物公園植物多様性センター

「花だけじゃない、雑木林の隠れた魅力を伝えよう」の実際をエリアガイドで受けた後に、『今日の植物多様性センターの雑木林』を紹介するガイド（30分）の企画』をグループ話し合い、その後企画案を発表しあうことで、雑木林の魅力を再確認するという内容でした。

### 〈花の少ない時期の雑木林の魅力をどのように伝えるか。〉

1. 花が終わった後のすみれ：野生のすみれ15種が寄せ植えされていました。花が終わるとただの草になるすみれの生存戦略、春葉と夏葉を使い分け、夏葉は春葉の4倍の光合成の量。他の植物が花を咲かせない早春からから花を咲かせ、そのあとはせつせと光合成を行うために、葉の形や大きさが変化して対応している。

2. 林床の植物 特にマメ科植物は地球上に2万種を数える勢力。つる、低木など形態が様々で、多様な繁殖戦略を持つ。根に根粒を持ち宿主に窒素酸化物を与える代わりに、宿主から栄養をもらっている。雑草を抜いた時に、根粒の有無を見よう。

3. 同じ種である木が同じ場所にあっても、ハムシの害に違いがある。隣り合っているガマズミの木2本。ハムシにやられているだいぶ弱っているものとそうでないものがある。葉の展開時期にサンゴジュハムシに葉を食われ弱ってしまった株とすぐ隣なのに元気な株。同じ種であっても個体差があるのは、個体ごとに遺伝子の違いがある可能性。

4. マヤラン：葉や根が退化し、光合成は花茎の一部の緑色下部分のみだが、寄生菌から栄養を受けている。他に頼って生きている植物が存在するのは雑木林の持つ力による。

5. カシノナガキクイムシの害によりだいぶ弱った木を3本伐採後に雑木林が若返りヒヨドリバナ、ヤマユリ、ノブドウの実がたくさんつくなど、雑木林に変化が生まれている。伐採したことで雑木林の循環を見ることができる。

### グループワーク

6名ごとの5グループに分かれて話し合い、模造紙にまとめて、グループごとに発表しあいました。

私のグループでは、エリアガイドの感想を話し合った後、テーマを「個体差のあるガマズミ」に決め、隣り合っている二株の様子を観察しました。

二株のガマズミは、一見にして弱っているのはどちらかであるか分かります。サンゴジュハムシ（写真右の小さな虫）の害を強く受けている株は、

- ① 枯れ枝が多く、枝の張りが少なく、樹高が低い
- ② 葉っぱは、すでに落ち葉のように茶色く、葉脈だけが残っているものが多い。
- ③ 実は全くついていない
- ④ 緑色の葉もガサガサ、ザラザラした触感で色も悪い。
- ⑤ 弱っている株なのに、残っている葉にサンゴジュハムシがついている



サンゴジュハムシが付いていても、害が少なく元気な株の様子

- ① 葉っぱが子供の手のように大きく、深緑で葉の表がつやつやして、葉が厚い。
- ② 実がたわわにたくさんついている
- ③ 枯れ枝はない。
- ④ 樹高は高（3m）く、枝の張りがしっかりしている。
- ⑤ 枝先から葉のつき方が密で多い

隣り合っている木の一方だけを、なぜハムシは弱らせてしまうか、話し合う中で、「ガマズミにもきっとハムシに食われることのいいことがある」と発言があり、全く益にならない虫にやられることにどんなメリットがあるのか、すぐさま答えは見つかりませんでした。講師の一人に尋ねたところ、ガマズミの益はないと即答されましたが。

また、元気な木の葉を食べに行かないで、弱った木にとどまっているのはハムシにとって都合の良い訳があるのか、まさか、葉が薄く小さいので食べやすい？

同じ木であっても、それぞれの個体差をよく見ることの面白さをととも感じました。

同じ種であっても遺伝子の違いによるかもしれないと、講師は話されました。どんな遺伝子の種類で株の違いが生まれるのか、ハムシ側の理由はないのか、もっといろいろな理由があるかもしれないと思いました。

サンゴジュハムシは、秋に産卵して卵のまま越冬して、春に孵化した幼虫は食欲旺盛で展開し始めた葉っぱを食いちぎり、6月頃にさなぎになると地中で過ごし羽化して成虫になり、さらに葉を食い散らかすという。サンゴジュとガマズミは、同じガマズミ科。ガマズミにハムシがいるときは、サンゴジュにハムシが付かないか注意が必要という。

また、植物の葉は虫に食われると、揮発性の化学物質を発生させて他の株に注意を呼び掛けたり、この化学物質が害虫の捕食者を呼び寄せたりするのだという。

わたしは、この講習を受け、丁寧に五感を駆使して観察することの楽しさを知りました。

そして、複数で観察するといろいろなことを知ることができ、観察した時の思いも様々で面白かったです。

実際に自然観察プログラムを実施するためには、もっとよく見たり、時間や季節を変えて観察する、周囲の他の植物にどんな虫がいるかなど、いろいろ観察する必要があると思いました。バッタ広場で虫を見る機会が増えてから、虫を見ようとする気持ちが湧いてくる自分があります。

微細な変化を見たいという自分の傾向もちょっとつかめました（雨宮 清子）。

## セミの抜け殻しらべ

私の住んでいる中台の集合住宅は、敷地の4割が緑地で、木が多くセミの声がにぎやかです。7月になると、チーッとというのはニイニイゼミ？。早朝や夕方にヒグラシが鳴き、夏本番には蝉しぐれのなかで暮らしています。

「夏休みに子供達と観察会を」という赤塚公園サービスセンターの呼びかけを受けて、セミの勉強会をすることになりました。

事前に予習をして、本番、8月24日は親子1組の参加でしたが、センターの稲田さんと鷺見さん、会員3名で、抜け殻探しにスタート、植え込みの葉っぱ、木に幹に、ケヤキ通りの舗装された道路わきのごく狭い植え込みにもセミの抜け殻がありました。ツクツクボウシの抜け殻も1個あった。大木のケヤキ並木ではセミの声は静か、そこではっきりとクマゼミの鳴き声が聞こえました。高速道路を渡って、徳丸緑地に入ると、アブラゼミ、ミンミンゼミの大きな鳴き声に混じってツクツクボウシも鳴き、自然度の違いを実感しました。

セミの人生

セミは木の枝に卵を産みます。翌年の梅雨頃に、卵から孵ったごく小さな幼虫が、枝から落下し、地面に穴を掘って潜り込み、木の根にたどり着いて木の根っこから汁を吸って大きくなり、5年後に地表に出て、大人のセミになります。小さな幼虫（ウジ虫）が穴を掘るのです。コンクリや固い地面など人工的な地盤ではダメですね。セミが生きるのにまず木があることですが、幼虫が土に潜れる自然な地面が必要です。ここにも目を向けたい。セミはカブトムシのように注目されませんが、長い年月を土の中で過ごし、地上に出て数日で一生を終えます。すごいですね。

センターに戻って、ミンミンとアブラゼミを分類。違いは触覚の特徴だけ。

各地で子供達と一緒にセミの調査をしているようです。抜け殻調べの事例を見ると、ルーペで触覚を見分けるのは低学年にはむずかしいので、くわしい人や親と一緒に調べています。私たちも集めた抜け殻を分類する予定でしたが、不慣れで、時間切れとなり、中央地区しか分類できませんでした。アブラゼミ18、ミンミン10匹、ツクツクボウシ1匹。アブラゼミが多いのは予想通り。徳丸緑地地区の抜け殻数と比較できなくて残念。

エアコンを入れて締め切って夏を過ごすようになると、セミも遠い存在になってしまいますね。9月に入っていつも聞こえていたヒグラシの声が聞こえませんでした。暑すぎる9月だから？、私の耳の老化？、環境悪化で住めなくなった？、それとも、窓の開け放しが少なくなったため？。来年は自宅のそばのセミをまず耳で確認したい。

さて、みなさんは、この夏、セミの声を聞きましたか。以前関東にいなかったクマゼミは鳴いていましたか。ツクツクボウシ、ヒグラシはどこで鳴いていましたか。

セミの抜け殻を採集しても自然破壊にはなりません。セミの抜け殻から身近な自然を勉強したいと思いました。

## 2024年(令和6年)ツバメの居る巣とツバメの空き巣の観察記録

私の住んでいる中板橋には、石神井川が流れています。私は、沈丁花の咲き始めた日やツバメの初見日を私なりに記録していますが、今年は、4月1日に記録しました。愛染通りには、なんか所かのツバメの巣を見ることが出来ました。たとえば双葉町7-13には使われなくなった古い巣が2か所残っています。次に大和町41-13のお宅の駐車場には、1個の巣がありました。丁度見に行った時に、お住まいの方と話ができて、観察をさせて下さいと許可を頂き、何度か伺った時に、6月4日3羽いたヒナの内、1羽が巣から落下して、死んでしまった、と聞きました。そして6月20日に2羽は、巣立って行きました。次は大和町40-6のお宅では、車庫に

4個の巣がありました。まるでツバメの巣の団地ではないでしょうか。そこのお宅とは、話が上手く伝わらなかったようで、観察を中断せざるを得ない状況になりました。個人宅敷地に入るので観察は難しい時もあります。しかしながら、そこを中心に観察は出来ました。7月16日にヒナ4羽確認、丸裸で頭に薄茶色の産毛生えていた。7月20日は、車庫に車が入っていたので外周にて観察する。1時間に10回以上餌やりに来ている。7月23日4羽の内3羽がツバメらしい黒の燕尾服になっていたが、もう1羽は少し茶色っぽい羽で、少し成長が遅れているように見えた。でも、4羽ともくちばしの根元は、白い色残っていた。7月25日、4羽の内2羽は、胸の下に白い羽が生えているが後の2羽、背中にまだうぶ毛のような茶色の羽がちよこんと残っていた。7月26日、4羽のヒナの内、2羽は、黒い羽が揃っているが、後の2羽は、こげ茶色の羽の、親羽の付け根にうぶ毛が残っている。

7月29日4羽とも、巣立ち完了。巣の周りで親からの給餌を待っている。17時15分元の巣の近くの空いている巣に3羽戻っていた。

7月31日3羽戻って来た。こうして、出たり入ったりしながら親と一緒に餌のとり方を教わり成長していくのか。

8月1日巣が空っぽになっていた。

石神井川上空を6~8羽が飛んでいる。8月4日から石神井川の橋の上で、観察する。

8月10日に中板橋商店街の中で、1つ巣が見つかった。

9月3日1羽が見られた。17時30分頃、確認した。

それ以降は、見当たらず15日を持って観察終了とした。

中板橋ではないが、買い物に行った時に、見つけたツバメの巣の話ですが、2023年まで使っていた巣が今年は空の巣になっていた。徳丸6-3ウエルシア薬局の軒下

もう一つは、2023年は、空き巣だったが今年から再び使い出した巣（大谷口北町50）

ここでは、4羽のヒナが8月1日に無事巣立ったと教えてくれた（山田元一郎）

## 台風10号の雨に思う 水循環のこと

8月末、台風10号は発生してからずっと九州の南に停滞し、台風から遠く離れた各地で大雨となり、新幹線が止まり、愛知県でがけ崩れ、関東も危ないとか、テレビは一日中台風の話をしていました。こんなの初めてですね。温暖化によって海水温が上昇したためという解説もありました。板橋区でも断続的に降り、強い雨もありましたが、気象庁の練馬観測所の雨量データを見るとそれほどの降雨量ではありませんでした。

9月1日、松月院通りからため池に向かう道路のあちこちで、流出したと思われる土砂がありました。島田さんによると、押し寄せた土砂がため池近くまで溜まっていたこと、ため池の水位は上昇して溢れたこと、出入口に土嚢を積んだところもあったそうです。ニュースにならなくても各地でこのような雨の影響が出ているのですね。

トンボ池には、狭い面積ですが、毎分12リットル（水道を出しっぱなしにした状態、1日で約17トン）湧き水が流入しており、出口（排水口）はありませんが、大雨が降っても、池の底や下流の水路から、水が抜け（浸透し）、トンボ池があふれることはありませんでした。

ため池に向かう道は荒川に向かう斜面に刻まれた谷で、分水嶺の松月院通りと両側の斜面からの水が集まる場所です。道路沿いに不動の滝があります。また、対岸の大仏下に湧く水を引いて美術館の横のピオトープに注ぎ込んでいます。トンボ池は湧き水の見える場所です。

雨は、地下に浸透し、植物の葉から蒸発散し、地下水となり湧水や川の水となって、蒸発してまた雨になります。

不動の滝の斜面上は、以前は畑でしたが今は住宅に変わりました。

雨がしみ込む緑地が減り、公園も舗装され、コンクリの中で暮らしていると、自然の恩恵や自然の水循環は見えなくなっていました。

「水循環の見える化」は災害に強いまちづくり、自然と共存するまちづくりのテーマだと思います。

新河岸川流域水循環マスタープランのアクションプランには、目的として雨水貯留・浸透施設の普及と自然地の質の向上があげられています。

「自然地の質の向上」はよく考えたいテーマです。

つまり豊かな緑が雨水を蓄え、木の葉から蒸散作用によって気化熱を奪うため、建物の陰より格段に涼しい（草だって同じ、コンクリートや土より涼しい）。さらに生き物をはぐくみ、大雨による災害を防いでくれます。

東京新聞（7月27日）に、「玄関先から洪水対策 広がる「雨庭」 コンクリより植栽重視」という記事が出ていました。板橋でも何とかしたい、と思います（坂本 郁子）。



高島通のケヤキ並木 広い歩道は舗装され、ケヤキの植柵は小さく、根が柵から盛り上がっている。雨のしみ込む地面がない。

## 活動・観察記録(8月~9月20日)

トンボ池 ザリガニ捕獲（6月17日から9月21日までで5246匹他に卵から孵ったばかりの5ミリ以下の稚ザリガニ112匹）、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、（オオ）シオカラトンボ産卵、リスアカネ、ナツアカネ、アカボシゴマダラ、コムスジ、キタテハ、ウラギンシジミ、アオスジアゲハ、オオミズアオ幼、オンバッター、ホシホウジャク（池の水にちょんちょんする一水浴び）、オオスズメバチ水浴び、タマムシ、オオヒラタシデムシ、ベッコウヒラタシデムシ、クサガメ（ノラ）、カワセミ、

バッター広場（城址）タマムシ、アオオサムシ、オオカマキリ、ムネアカハラビロカマキリ、ツチイナゴ、ショウリョウバッタ、クビキリギス、カネタタキ、カブトムシ♂♀（死骸）、ノコギリクワガタ（死骸）、シロテンハナムグリ、ゴマダラチョウ、アカボシゴマダラ、イチモンジセセリ、キマダラセセリ、サトキマダラヒカゲ、コムスジ、ベニスズメ、ツマキシヤチホコ幼、オオウンモンクチバ、ナカグロクチバ、オオホシカメムシ、シロヘリクチフトカメムシ、シロヘリクチフトカメムシ幼、アミガサハゴロモ（外来種か不明）、コノシメトンボ、ナツアカネ、アレチヌスビトハギ（駆除）、アキノノゲシ、ヒメジソ、キンミズヒキ繁茂、ヤブツルアズキ繁茂、コセンダングサ繁茂（抜取り）、



写真左 小さなカメムシ（シロヘリクチフトカメムシ）の幼虫が蛾の汁を吸っている。おどろき！

写真右 スズメバチがトンボ池の浅瀬に浸かって体を冷やしている？（とても暑い日だったからね）



# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

## 1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）どなたでも

生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに戻します。ササ刈り等の作業をします（カマは用意します）。

10月13日（日）10：00～11：00（どんぐりまつり順延の場合は中止）

11月10日（日）10：00～11：00

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋、あれば図鑑、虫眼鏡など、

## 2 赤塚ビオトープ（バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

やっと猛暑が終わり、茂ったバッタ広場のササや木の枝を切る作業をします。

10月26日（土）10：00～11：00

11月23日（土）10：00～11：00

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前 汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

## 3 日暮台公園と樹林地の観察（第1日曜日） 10時日暮台公園前集合

## 4 赤塚公園どんぐりまつり

日時 10月12日（土）10時～15時（雨天の場合は翌日）

集合場所：赤塚公園サービスセンター

水と緑の会も出展します。

ミニ観察会：「どんぐりの森で自然の宝物をさがそう」10時、13時スタート（1時間程度）

展示：雑草の種をさわってみよう

●ビオトープボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。